

氏名	赤 木 正 彦
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3015号
学位授与の日付	平成8年 6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Myocardial troponin T levels in patients with renal dysfunction (腎機能障害患者における心筋トロポニンT測定に関する検討) 第1編 A comparative study of myocardial troponin T levels in patients undergoing hemodialysis (血液透析患者における心筋トロポニンT測定に関する検討) 第2編 Myocardial troponin T levels in patients with diabetic nephropathy (糖尿病性腎疾患患者における心筋トロポニンT測定に関する検討)
論文審査委員	教授 大江 透 教授 菅 弘之 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第1編の要旨

〔目的〕急性心筋梗塞の診断や重症度の判定の指標として用いられる心筋傷害のマーカーは、慢性腎不全患者では異常高値を示すため、診断にあたっては注意を要する。心筋傷害のマーカーである血清トロポニンT (TnT)を血液透析患者で測定し、他のマーカーと比較検討した。〔対象・方法〕原疾患が、糖尿病である血液透析患者25例 (DM群)と、糖尿病ではない血液透析患者25例 (non-DM群)を対象とした。透析療法を施行していない糖尿病患者50例を対照群とした。測定項目として、TnT, ミオシン軽鎖1, ミオグロビン, クレアチンキナーゼを選び血液透析前後で測定した。〔結果〕TnT値は、DM群が対照群に比べ有意に高値であったが、non-DM群とは有意差を認めなかった。また、TnTは、他の心筋傷害のマーカーに比べて心筋特異性が高く、腎機能による影響が少ないことが確認された。〔結論〕心筋TnTは、腎機能による影響が少ないため、血液透析患者において有用性の高いマーカーであると診断された。

第2編の要旨

〔目的〕心筋TnTを糖尿病患者で測定し、腎症の各病期でいかなる値を示すかを検討した。〔対象・方法〕糖尿病患者104例を対象とした。そのうち、腎症のない41例をI群、微量アルブミン尿のみを認める15例をII群、顕性蛋白尿を認める15例をIII群、腎不全を認めるが透析療法は施行していない8例をIV群、腎不全のため血液透析を施行している25例をV群とした。心筋TnTの測定は、EIA法、試薬エンチムテストトロポニンT (ベーリンガー・マンハイム社)を用いた。〔結果〕心筋TnT値は、I群に比べ、II群、III群は低値である傾向を認めたが、IV群は高値の傾向を認め、V群では有意に高値であった。〔結論〕糖尿病性腎症患者では慢性腎不全に陥ると心筋TnT値は高値を示したが、心筋TnT値は腎機能低下による影響が少ないため、腎不全が進行した糖尿病性腎症患者における心筋傷害の合併率の高さを反映していると考えられた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は血液透析、糖尿病性腎症に伴う心筋障害を心筋トロポニンTを用いて研究したものであるが、血液透析、糖尿病性腎症における心筋障害の定量的評価に心筋トロポニンT測定が有用であるという重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。